

「メッセージフォーマット」参照に当って

(記載対象電文)

- ・別紙 2「対象電文一覧」を参照してください。
- ・各メッセージフォーマットの右下部には、業務処理大区分名および業務処理区分コード・帳票コードを記載しています（ただし、複数の帳票コードで同一のメッセージフォーマットを参照しているような場合には、その中で最も小さい帳票コードとその業務処理大区分名を記載しています）。

(記載の順序)

- ・業務処理大区分名（下表）毎に、業務処理区分コードの昇順、帳票コードの昇順に記載しています。
ただし、「共通エラー情報（E***-****）」および「共通受付済応答（Z***-****）」は、仮の業務処理大区分名「全業務共通」として分類しています。

＜業務処理大区分一覧＞	
業務処理大区分*	業務処理大区分名
-	全業務共通
00	基本処理関連
02	システム運営
05	パラメータ設定・変更
06	パラメータ照会
07	業務運営
21～24	当座勘定
25	当座勘定（同時決済口）
26	振替社債等DVP
27	外国為替円決済
28	準備預金
41	金融調節等入札連絡
42	国債売買
43	スワップ（財務省）
52	与信・担保共通
53	与信
54	担保受払等
72	国債発行
74	国債振替決済
75	国債DVP
76	国債DVP（CBL）
97	業務共通

※ 業務処理区分コードの先頭2桁または帳票コードの先頭2桁。

(業務データルート要素、メッセージ識別要素の属性)

- ・業務データルート要素およびメッセージ識別要素には属性を設定します（受信電文の場合には必ず設定されます）。詳細は、「メッセージフォーマット仕様書（コア機能・共通編）」中、2. 1を参照してください。

(電文送受信時の留意点)

- ・電文（インスタンス）の作成および送受信に当たっては、メッセージフォーマットおよびスキーマを参照してください。
ISO電文の場合には、ISOメッセージのMDRおよびCBPR+（本文の表 I. 3-1 中、「準拠する電文規格」欄）も参照してください。

(メッセージフォーマットの記載事項)

非ISO電文（論理項目名にISOメッセージのMessage Itemを用いないケース）

項番	項目	説明
1	メッセージ名	メッセージ（送受信電文のうち、取引データ部）の名称。
2	種別	電文の種別。 「送信」「RES」「EX応答」「EX一方通知」
3	帳票コード／業務処理区分コード	送信電文の場合は業務処理区分コード、RES電文またはEX電文の場合は帳票コード。
4	名前空間	業務データにおけるBody要素の子要素以下の名前空間。業務データルート要素の属性および属性値として設定する。
5	メッセージのバージョン	メッセージの現在のバージョン情報（初期値は"01"）。メッセージ識別要素のver属性の属性値として設定する。
6	論理項目名	メッセージ上の入出力要素の名称（日銀ネット端末の画面・帳票上の項目名とは必ずしも一致しない）。
7	論理データ型	論理項目名に対応するデータ型。 「可変長半角」「可変長全角」「可変長全半角」「固定長半角」「固定長全角」「整数」「小数」「日付」
8	階層	メッセージ上のタグの階層。最上位層（"1"）は業務データルート要素(Gdata)。
9	物理項目名	論理項目名に対応する物理項目名。入出力要素のタグ名と同一となる。なお、入出力要素が複数階層で構成されている場合、最下層に対してのみ値を設定する。
10	物理データ型	物理項目名に対応するデータ型。
11	桁数（JUST、最小、最大）	設定可能な文字数。論理データ型が「整数」「小数」「日付」の場合は記載しない。 例：「JUST5」…5文字固定、「最小1、最大4」…1桁以上4桁以下
12	値範囲（最小、最大）	設定可能な値範囲。論理データ型が「整数」「小数」の場合のみ記載する（「9」は0～9の半角数字）。ただし、備考欄に「正常値の範囲」の記載がある場合は、当該記載に則って値を設定する。 例：「最小0、最大999」…0以上999以下
13	形式	取り得る文字形式。論理データ型が「固定長半角」の場合にのみ記載する。 「9」は半角数字、「X」はA～Z/a～z/0～9またはA～Z/0～9の半角英数字、「x」はa～z/0～9の半角英数字、その他は記号（半角ハイフンなど）を示す。詳細はスキーマ参照。
14	Or	同一階層に位置する複数の異なる入出力要素（波括弧で囲まれた要素）について、いずれか一つのみが設定可能であることを示す。
15	Mult.	入出力要素の出現回数。 ・[0..1]：入出力要素が0回または1回のみ出現（反復不可能な任意項目） ・[0..m]：入出力要素が0回以上m回以下まで出現可能（有限回反復可能な任意項目、m：1以上の整数） ・[0..n]：入出力要素が0回以上、出現可能（無制限に反復可能な任意項目） ・[1..1]：入出力要素が1回のみ出現（反復不可能な必須項目） ・[1..m]：入出力要素が1回以上m回以下まで出現可能（有限回反復可能な必須項目、m：1以上の整数） ・[1..n]：入出力要素が1回以上、出現可能（無制限に反復可能な必須項目）
16	備考	設定内容等に関する補足事項。

(メッセージフォーマットの記載事項)

非ISO電文（論理項目名にISOメッセージのMessage Itemを用いるケース）

項番	項目	説明
1	メッセージ名	メッセージ（送受信電文のうち、取引データ部）の名称。
2	種別	電文の種別。 「R E S」「E X 応答」「E X 一方通知」
3	帳票コード／業務処理区分コード	帳票コード。
4	名前空間	業務データにおけるBody要素の子要素以下の名前空間。業務データルート要素の属性および属性値として設定する。
5	メッセージのバージョン	メッセージの現在のバージョン情報（初期値は“01”）。メッセージ識別要素のver属性の属性値として設定する。
6	論理項目名	メッセージ上の入出力要素の名称（可能な範囲でISOメッセージのMessage Itemを用いているため、英字表記。日銀ネット端末の画面・帳票上の項目名とは一致しない）。
7	階層	メッセージ上のタグの階層。最上位層（“1”）は業務データルート要素(Gdata)。
8	物理項目名	論理項目名に対応する物理項目名（可能な範囲でISOメッセージのXML Tagを利用）。入出力要素のタグ名と同一となる。なお、入出力要素が複数階層で構成されている場合、最下層に対してのみ値を設定する。
9	物理データ型	物理項目名に対応するデータ型（Simple Typeには、可能な範囲でISOメッセージのData Typeを利用）。
10	Or	同一階層に位置する複数の異なる入出力要素（波括弧で囲まれた要素）について、いずれか一つのみが設定可能であることを示す。 なお、同一階層に1つしか入出力要素が存在しない場合も、choice要素の子要素については「Or」を記載する。
11	Mult.	入出力要素の出現回数。 ・[0..1]：入出力要素が0回または1回のみ出現（反復不可能な任意項目） ・[0..m]：入出力要素が0回以上m回以下まで出現可能（有限回反復可能な任意項目、m：1以上の整数） ・[0..n]：入出力要素が0回以上、出現可能（無制限に反復可能な任意項目） ・[1..1]：入出力要素が1回のみ出現（反復不可能な必須項目） ・[1..m]：入出力要素が1回以上m回以下まで出現可能（有限回反復可能な必須項目、m：1以上の整数） ・[1..n]：入出力要素が1回以上、出現可能（無制限に反復可能な必須項目）
12	参考：画面・帳票上の項目名	各論理項目名に対応する日銀ネット端末の画面・帳票上の項目名。
13	備考	設定内容等に関する補足事項。

(メッセージフォーマットの記載事項)

ISO電文

項番	項目	説明
1	メッセージ名	メッセージ（送受信電文のうち、取引データ部）の名称。
2	種別	電文の種別。 「送信」「RES」「EX応答」「EX一方通知」
3	帳票コード／業務処理区分コード	送信電文の場合は業務処理区分コード、RES電文またはEX電文の場合は帳票コード。
4	名前空間	業務データにおけるBody要素の子要素以下の名前空間。業務データルート要素の属性および属性値として設定する。
5	メッセージのバージョン	メッセージの現在のバージョン情報（初期値は"01"）。メッセージ識別要素のver属性の属性値として設定する。
6	対応するISOメッセージ	利用するISOメッセージのBusiness Area、Message NumberおよびVariant Numberの組合せ。 例：pacs.008.001
7	ISO-version	複数バージョンのISOメッセージで構成される電文については、各MBBが属するISOメッセージのversionを記載（単一バージョンのISOメッセージで構成される電文は「-」を記載）。ただし、一部のMBBでは、ISOメッセージを利用しない日銀ネット独自の項目について「-」を記載。
8	Index/(Ref)	MDRに準拠する電文については、対応するISOメッセージのMessage ItemのIndex。括弧付の場合はEnd PointのRef。ISOメッセージを利用しない日銀ネット独自の項目およびCBPR+に準拠する電文については、「-」を記載。
9	Message Item	対応するISOメッセージのMessage Item（論理項目名に相当）。日銀ネット独自の項目の場合は、ISOメッセージを参考に付与。
10	階層	メッセージ上のタグの階層。最上位層（"1"）は業務データルート要素(Gdata)。
11	<XML Tag>	対応するISOメッセージのMessage Itemのタグ名（物理項目名に相当）。日銀ネット独自の項目の場合は、ISOメッセージを参考に付与。
12	Message Item Type	対応するISOメッセージのMessage ItemのMessage Item Type（物理データ型に相当）。日銀ネット独自の項目の場合、ISOメッセージを参考に付与。
13	Or	同一階層に位置する複数の異なる入出力要素について、いずれか一つのみが設定可能であることを示す（波括弧は記載していないため、Orの範囲はISO20022のMDR、CBPR+またはそれらのスキーマ参照）。 なお、同一階層に1つしか入出力要素が存在しない場合も、choice要素の子要素については「0r」を記載する。
14	Mult.	入出力要素の出現回数。 ・[0..1]：入出力要素が0回または1回のみ出現（反復不可能な任意項目） ・[0..m]：入出力要素が0回以上m回以下まで出現可能（有限回反復可能な任意項目、m：1以上の整数） ・[0..*]：入出力要素が0回以上、出現可能（無制限に反復可能な任意項目） ・[1..1]：入出力要素が1回のみ出現（反復不可能な必須項目） ・[1..m]：入出力要素が1回以上m回以下まで出現可能（有限回反復可能な必須項目、m：1以上の整数） ・[1..*]：入出力要素が1回以上、出現可能（無制限に反復可能な必須項目）
15	参考：画面・帳票上の項目名	各Message Itemに対応する日銀ネット端末の画面・帳票上の項目名。隅付き括弧（【】）の項目は、画面・帳票上に存在しない項目。
16	備考	設定内容等に関する補足事項のほか、以下に掲げる事項等。 ・スキーマ上は設定任意であるが、日銀ネットのルール上は設定必須の項目には「設定必須」と記載 ・BICコードを設定・出力する項目には「BICコード」と記載 ・日銀ネット端末の画面とメッセージフォーマットが一対一で対応しない項目の補足事項を記載（例：繰返し1～6回目の項番N<N：InstructionInformationの項番>はそれぞれ画面上の項目「INFORMATION1」～「INFORMATION6」に対応） ・金融機関等コード（金融機関等店舗コードも同様）について、BICコードか日銀コードのいずれかを出力する項目には、「BIC選択先の場合、金融機関等コード（BICコード）を出力」または「BIC選択先でない場合、金融機関等コード（日銀コード）を出力」と記載。ただし、この場合、出力対象の金融機関等（店舗）について、BICコードが登録されていない場合には、日銀コードを出力する ・各要素の設定条件または出力条件

メッセージ名	共通エラー情報	種別	R E S E X 応答	帳票コード/ 業務処理区分コード	E***-*****	名前空間	http://www.boj.or.jp/bojnet/product/gCm/ver01
--------	---------	----	-----------------	---------------------	------------	------	---

メッセージのバージョン	01
-------------	----

データ項目															
項番	論理項目名	論理データ型	階層	物理項目名	物理データ型	桁数			値範囲		形式	Or	Mult.	備考	
						JUST	最小	最大	最小	最大					
1	業務データルート要素	-	1	Gdata	Gdata-CT6	-	-	-	-	-	-	-	[1..1]		
2		-	2	oE0001	oE0001-CT1	-	-	-	-	-	-	-	[1..1]		
3		エラーメッセージ	可変長全角	3	ermssj	Max32String	-	1	32	-	-	-	-	[1..1]	
4		補足メッセージ	可変長半角	3	hskMssj	Max6String	-	1	6	-	-	-	-	[0..1]	

メッセージ名	共通受付済応答		種別	RES	帳票コード／ 業務処理区分コード	Z***-*****	名前空間	http://www.boj.or.jp/bojnet/product/gCm/ver01
--------	---------	--	----	-----	---------------------	------------	------	---

メッセージのバージョン	01
-------------	----

データ項目															
項番	論理項目名		論理データ型	階層	物理項目名	物理データ型	桁数			値範囲		形式	Or	Mult.	備考
							JUST	最小	最大	最小	最大				
1		業務データルート要素	-	1	Gdata	Gdata-CT8	-	-	-	-	-	-	-	[1..1]	
2		メッセージ識別要素	-	2	oZ0001	oZ0001-CT1	-	-	-	-	-	-	-	[1..1]	
3		業務処理区分名	可変長全角	3	gyumShrKbnMi	Max30String	-	1	30	-	-	-	-	[1..1]	

メッセージ名	通常再送	種別	送信	帳票コード/ 業務処理区分コード	008201	名前空間	http://www.boj.or.jp/bojnet/product/g00/ver01
--------	------	----	----	---------------------	--------	------	---

メッセージのバージョン	01
-------------	----

データ項目														
項番	論理項目名	論理データ型	階層	物理項目名	物理データ型	桁数			値範囲		形式	Or	Mult.	備考
						JUST	最小	最大	最小	最大				
1	業務データルート要素	-	1	Gdata	Gdata-CT444	-	-	-	-	-	-	-	[1..1]	
2	メッセージ識別要素	-	2	i008201	i008201-CT1	-	-	-	-	-	-	-	[1..1]	
3	メッセージRefID	-	3	MsgRefID	MessageRefIDType	-	-	-	-	-	-	-	[1..1]	
4	金融機関等店舗コード	固定長半角	4	BKBRcode	BKBRcodeType	7	-	-	-	-	X999999	-	[1..1]	再送の対象となる元電文の/共通ヘッダ/メッセージRefID/金融機関等店舗コード
5	CPU接続制御コード	固定長半角	4	CPUcode	CPUcodeType	3	-	-	-	-	-	-	[1..1]	再送の対象となる元電文の/共通ヘッダ/メッセージRefID/CPU接続制御コード (形式はXXX。元電文を日銀ネット端末で受信した場合、“***”)
6	システム区分	固定長半角	4	SysCat	SysCatType	3	-	-	-	-	XXX	-	[1..1]	再送の対象となる元電文の/共通ヘッダ/メッセージRefID/システム区分
7	窓口番号	固定長半角	4	RouteNo	RouteNoType	3	-	-	-	-	999	-	[1..1]	再送の対象となる元電文の/共通ヘッダ/メッセージRefID/窓口番号
8	処理通番	固定長半角	4	Number	NumberType	7	-	-	-	-	9999999	-	[1..1]	再送の対象となる元電文の/共通ヘッダ/メッセージRefID/処理通番
9	運用日付	固定長半角	4	Date	DateType	8	-	-	-	-	99999999	-	[1..1]	YYYYMMDD (西暦) 再送の対象となる元電文の/共通ヘッダ/メッセージRefID/運用日付
10	メッセージ区分	固定長半角	4	MsgCat	MsgCatType	3	-	-	-	-	XXX	-	[1..1]	RES電文の場合：“RPL” EX電文の場合：“NTF” 再送の対象となる元電文の/共通ヘッダ/メッセージRefID/メッセージ区分